

●上州平野の地形区分

沢口 宏＝群馬県立太田女子高等学校教諭

火山裾野まで含めた上州平野の地形面を、形成順に分類すると概略以下になる。

赤城南面 赤城南面は、梨木泥流の流れ山、新旧成層凝灰垂角礫層、大胡軽石流、ガラス石質火砕流、未区分泥流性二次堆積物などで構成され、これを白川、荒砥川の扇状地や多数の放射谷が開析している。女堀は、裾野末端の古期成層凝灰垂角礫層からなる斜面に掘られ、伊勢崎北部の波志江沼付近で流れ山の（泥流丘）間を通過して大間々扇状地 面へ達する。

榛名山麓 図内の斜面は、ほぼ相馬力原扇状地に含まれる。この扇状地は古い泥流や火砕流地形を開析してつくられ、海拔130m以上は主に泥流性扇状地、以下は砂質扇状地である。

邑楽台地 太田の西・南の台地は、館林から板倉へ続く邑楽台地の西端部をしめる。中部ローム層におおわれ、太田南部からナウマン象の旧産を産するので下末吉期に対比される。太田南部から館林西部にかけて、古砂丘が形成されている。

大間々扇状地 面 かつての渡良瀬川が形成した扇状地で、湯之口軽石層以上の中部ローム層全部をのせる。この面には、樹枝状浸食谷が発達して 面よりはるかに開析が進んでいる。浸食谷の谷頭には湧水がある。

前橋台地 層厚10m前後の前橋泥流堆積物で構成される。泥流は、上部ローム下部期で浅間火山起源と推定されている。台地形成層が緻密かつ泥質のため、台地表面はほとんど水田化している。

大間々扇状地 面 上部ローム層をのせる新期扇状地。典型的な扇状地地形を示し、海拔60m前後に湧水帯を形成するが、その浸食谷は扇端部にとどまっている。

自然堤防 伊勢崎市南部までの広瀬川低地は、旧利根川の氾らん原だったので旧中洲の微高地が散在する。鳥川合流点以下の利根川は、近世まで乱流をくり返し幅の広い自然堤防を形成した。渡良瀬川も桐生～足利間で乱流し、自然堤防を残している。

●利根川以北の湧水池群

富田栄作＝太田市立強戸中学校教諭 中島啓治＝群馬県立太田高等学校教諭 野村哲＝群馬大学教養部教授

前橋市から伊勢崎市・太田市にかけての利根川以北にみられる湧水池は、北西～南東方向に連続して分布している。この湧水池群は、地形、地質、湧水池の分布状況などの関係から、大きく三地域に分けられる。

大間々扇状地扇端の湧水地帯 早川以東に分布する湧水池。洪積世末期の古渡良瀬川により形成された扇端付近（標高約50～60m）に発達する湧水池でその数は約60である。

赤城山南麓の湧水地帯 国道50号付近から北方にかけて分布する湧水池。赤城火山起源の噴出物・砂礫層で構成される赤城南麓の、標高100～190m付近に分布している。その一部は古利根川（現在の桃木川にそう）の氾らん原と接している。

伊勢崎市北部の湧水地帯 と の中間地帯にあたり、国道50号の南、早川以西に分布する。東は大間々扇状地の砂礫層、西は赤城火山起源の泥流堆積物・砂礫層、さらにこれらを削って発達した沖積層とである。 と の両者の性格を有する湧水地帯。

なおこの湧水池調査では、地元の小・中学校（前橋市立桂萱小・桂萱東小・桂萱中・木瀬中・荒砥中、伊勢崎市立三郷小・第三中、赤堀村立赤堀小、他）の教員、児童、生徒、父兄のみなさんからご協力をいただいた。厚くお礼申しあげる。

図1 - 赤城山南麓周辺の地形と中世荘園の分布

<能登編図、地形は沢口、湧水池は富田ほか、中世荘園の分布は峰岸による>

